

全国学力・学習状況調査を



子どもと教師の自己評価に生かします

校長 橋本 敬子

「学力」は、国や世界においても知識・技能にとどまらず学習意欲、思考力、判断力、表現力等までも含むものととらえられています。平戸小学校でも、その育成を重視した授業づくりに取り組んでいます。しかし、その「学力」が確かに身につけているかどうかを「評価すること」は教育の歴史の中でも研究課題とされています。

テスト等で数値化されて量的側面(点数が多い、少ない)として表されるものは、「見える学力」として評価しやすいといえます。特に知識・技能(読み・書き・算)の学力は、量的側面として表しやすく評価しやすいといえます。

それに対して、読み・書き・計算を活用した思考力、判断力、表現力、問題解決能力、学ぶ意欲、学び方等はテストなどでは測定しにくく、「見えにくい学力」として評価が難しいとされています。

最近では、PISA型読解力やコミュニケーション能力が重要といわれています。これらの能力は、「学力」の重要な部分を担うと考えられているからです。本校でも、教科学習を中心にして、問題解決能力の育成を図る授業研究を通してコミュニケーション能力等の「見えにくい学力」をどう評価していくかの課題解決にも取り組んでいるところです。

さて、今回実施しました調査の一番の趣旨は、客観的なデータから学校(教師)の指導の改善を図ることにあります。実施しました6年生に配付された個人票をもとに、子ども自身が自分の学習状況を客観的に見つめ直し、振り返ると共に、これからの学習の見通しを立てることが大切になります。また、学校としましては調査結果を基に授業の工夫改善に努めていきたいと思っております。

本校調査結果の概要

1 教科学習状況調査結果

国語・算数共通の傾向

A 問題(主に「知識」を問う)「知識」はおおむね理解しています。

B 問題(主に「活用」を問う)「知識・技能」を活用する力に課題があります。

よい状況と考えられる内容 指導・改善が必要と考えられる内容

【国語】

読むこと： 説明文の段落の内容をとらえること。

登場人物の心情について表現や叙述に即して読むこと。

書くこと： 目的や様式に応じて必要な事項を選んで書くこと。

述べられている事柄の理由を要約すること、条件に即して書き換えること。

話すこと・聞くこと： 聞き手にとって分かりやすいスピーチにすること。

言語事項： 漢字を正しく読むこと。

接続語の使い方、指示語が示す内容を理解すること。

【算数】

数と計算： 整数、小数、分数の四則計算をすること。

量と測定： 基本的な平面図形の面積を求めること。

地図から複数の図形を見出し、面積を比較し説明すること。

数量関係： 伴って変わる二つの数量について、関係を表にまとめ変化の規則性を読み取ること。

式の形に着目して計算結果の大小を判断し、根拠を明らかにして説明すること。

2 質問紙調査結果(生活環境や生活習慣、学習に対する意識調査)

- ・学校で楽しみにしている活動があると回答した割合が高い。
- ・住んでいる地域が好きで、地域行事に参加していると回答した割合が高い。
- ・家の人と朝食や夕食を一緒に食べると回答した割合が低い。
- ・家で学校の授業の予習や復習をしていると回答した割合が低い。
- ・人の手助けをすることや清掃活動への参加が少ない傾向がある。

